

雪氷防災研究センターが行った 発達した南岸低気圧による平成26年豪雪災害調査1（速報）

雪氷防災研究センター

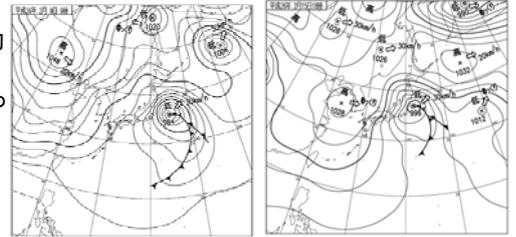


調査地点

北海道地方

平成26年2月は、日本の南岸を頻繁に低気圧が通過しました。中でも2月8日から10日にかけて通過した低気圧と、14日から19日にかけて通過した発達した低気圧は、西日本から北日本にかけての太平洋側を中心に広い範囲で雪が降り、大きな被害をもたらしました。

特に14日から19日の低気圧は、動きが遅く、発達しながら本州の南岸から三陸沖、北海道の東海上にゆっくりと進み、19日にかけて千島近海でほとんど停滞しました。この低気圧の影響で、最深積雪は甲府で114cmとなるなど、18地点で観測史上1位を更新しました。北日本では、えりも岬で32.9m/sを記録するなど暴風雪となりました。



発達した2つの南岸低気圧(左:2014年2月9日9時、右:2月15日18時)の地上天気図

北海道ではこの通過した南岸低気圧により、2/16から2/19にかけて東部を中心に暴風雪となり、視程障害や吹きだまりによる交通障害が各地で発生しました。

<中標津調査 2/21-2/22>

2/16~2/19にかけて発生した吹雪時には、文科省プロジェクトで実施している吹雪予測システムによる予測情報を基に中標津町に吹雪対応のアドバイスを実施しました。また吹雪の終息後に影響調査(吹きだまり発生個所の調査等)を行いました。



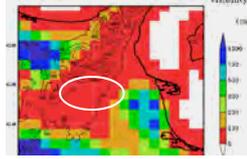
冬前の写真(西竹地区)



吹きだまりで埋まった道路(除雪後)



吹きだまりで埋まった道路(養老牛地区)



白で囲まれた地域が中標津周辺

吹雪予測システムの18日10時に対する予測画面
視程100m以下(赤色)の予測を適中させている

<新得調査 2/18-2/20>

動きの遅い発達した低気圧による暴風雪のため、長時間吹雪による視程障害が継続し、吹きだまりや雪崩が発生しました。



吹雪による広域的な視程障害(2/18 8:30頃)



吹雪による視程障害、吹きだまりの発生



吹きだまりが原因で発生した表層雪崩

東北地方

東北地方では、2/8~10と2/14~17にかけて通過した南岸低気圧の影響で大雪となり、交通機関や構造物を中心に被害を受けました。

<月山道路(国道112号)調査2/10>

表層雪崩により2月9日に通行止めが発生しました。



雪崩破断面の安定度調査



国土交通省山形河川国道事務所からの依頼で応急対策アドバイス

<仙台市調査2/11, 2/19>

大雪により交通機関や構造物に被害がありました。



仙台駅前の積雪状況



仙台市屋内グラウンド屋根破損
周囲で積雪量調査実施

<関山峠(国道48号)調査2/15-2/24>

関山峠では、これまでにない大規模なものを含む複数の表層雪崩により、2月15日から10日間通行止めとなりました。



道路横を流れる広瀬川の上流まで、道路を超えて到達した大規模な表層雪崩



車両を飲み込んだ雪崩堆積物を乗り越え、雪崩発生地点の把握と対策のための調査を実施



雪崩斜面付近の安定度調査
雪崩発生時は非常に不安定な状態であることを確認



ヘリコプターから雪崩斜面確認
国土交通省からの依頼で積雪調査とヘリコプターからの調査を行い、応急対策をアドバイス